

見沼文化の早期後葉(その1)

2019. 3. 3 毒島正明

1、早期後葉の環境について

(1) 縄文海進について

約9000年前から開始した急激な温暖化による海水準の上昇は「縄文海進」と呼ばれ、約7000年前後の早期後葉には海進のピークを迎える。

(2) アカホヤ火山灰について

鬼界アカホヤ火山灰は、鬼界カルデラの大噴火に伴って噴出した火山灰。天神山式期・打越期の新しい段階にあたる。

2、見沼の遺跡について

(1) 小貝塚の形成→溺れ谷の形成による泥質干潟

篠山遺跡…マガキ、ハイガイ主体 21号炉穴

八雲貝塚…マガキ 5号炉穴

北宿遺跡…ハイガイ

馬場小室山遺跡…ハイガイ(主)、マガキ 90号土壙
炉穴、絡条体圧痕文土器も出土

(2) 代表的遺跡の時期

篠山遺跡…茅山上層式が主体

北袋遺跡…茅山上層式が主体

八雲貝塚…石山式・打越式新併行期、下沼部式の系譜…八雲式(仮称)

※篠山遺跡、北袋遺跡に茅山上層式の突瘤・円孔文あり

別添の図版出典…早坂広人 2000「埼玉県における鶴ヶ島台～打越式の様相」『第13回縄文セミナー 早期後半の再検討』から



アカホヤ火山灰の降下範囲
(新井編 1993)

3、まとめ

- ・見沼周辺は茅山上層式以降の遺跡の集中地点
- ・茅山上層式からその後の下沼部式は継続する
- ・打越式期に遺跡減少(あるがパラパラ)→奥東京湾の遺跡に共通
- ・打越式期は古入間湾に多い→打越式は西(静岡・神奈川)からの土器
- ・八雲貝塚の隆帯と縄文の系譜が南関東の打越式に類型として残る

別紙(研究史)

1、山内清男氏の茅山式

- ・1929年「関東北に於ける繊維土器」
最古の型式→繊維土器 その中でも内面に条痕のある型式が古い
- ・1930年茅山式設定→「繊維土器に就て追加第三」
「内外面に条痕のあるのが常である」「文様は、点列によるものと、細隆線によるものが多い」
- ・1941年『日本先史土器図譜』
「茅山貝塚の土器を標準として命名された」「繊維を含み、内外面に条痕が加えられている」

2、赤星・岡本氏による茅山式の細分

- ・1948年、赤星直忠による野島貝塚の報告
- ・1956年、坪井清足による石山貝塚の報告
茅山式→粕畑式→上ノ山式→入海Ⅰ式→入海Ⅱ式→石山式
- ・1959年、赤星・岡本による茅山貝塚の報告
野島式→鶴ヶ島台式→茅山下層式→茅山上層式
- ・1962年、赤星・岡本による吉井城山第一貝塚の報告
茅山上層式に粕畑式の共伴、下部貝層直上→吉井式と仮称、貝殻腹縁連続山形文出土

吉井城山第一貝塚の茅山上層式 下部階層の土器（口縁部破片から）

- a 条痕のみ…約60%（1位）、b 条痕を文様化…約0.5%（9位）
- c 隆帯…約3.0%（6位）、d 凹線文…約1.0%（8位）
- e 刺突・列点文…約11.0%（2位）、f 沈線による文様…約5.0%（5位）
- g 貝殻文…約1.5%（7位）、h 縄文を有す…約8.0%（4位）
- i 爪形文（粕畑式）…約10.0%（3位）

3、東海系土器群

- ・1937年、吉田富夫・杉原荘介氏によって粕畑式・上ノ山式設定（愛知県粕畑貝塚・上ノ山貝塚）
粕畑式…繊維を含む、貝殻条痕、爪形の点列文、皿状把手、小形底部
上ノ山式…繊維微少、条痕なし、口縁直下に紐帯も指頭状交互押捺、尖底

4、下沼部式の設定

- ・1982年、安孫子昭二氏により下沼部遺跡に代表する絡条体圧痕文を「下沼部式」と仮称上ノ山式併行とする。翌年の神奈川考古シンポジウムにて、撤回する「上ノ山段階から入海Ⅰ・入海Ⅱの段階まで幅広くあるため」

5、打越式の設定

- ・1978年、荒井幹夫・小出輝雄によって打越遺跡の報告
貝殻腹縁文土器・条痕文土器・斜縄文土器をセットとし、東海地方の石山式・天神山式を伴出する土器を仮称打越式